

ダイジェスト版

経済社会における会計・監査 の意義と役割

久留米大学商学部 2013年12月4日

公認会計士・監査審査会
常勤委員 廣本 敏郎

はじめに

審査会の組織と業務

公認会計士・監査審査会の発足

- 設置 2004年（平成16年）
 - 一連の不正会計事件による会計不信の世界的な高まりを背景に、欧米での監査監督機関の設立と併行して、独立して職権を行使する合議制の行政機関として設置
 - 前身は公認会計士審査会。その沿革は公認会計士法が制定された1948年まで遡る。
- 業務内容
 - 公認会計士試験の実施、監査事務所の検査など
- 組織
 - 審査会（会長1名、委員9名）、事務局

公認会計士の使命

「公認会計士法」第1条

公認会計士法 第1条

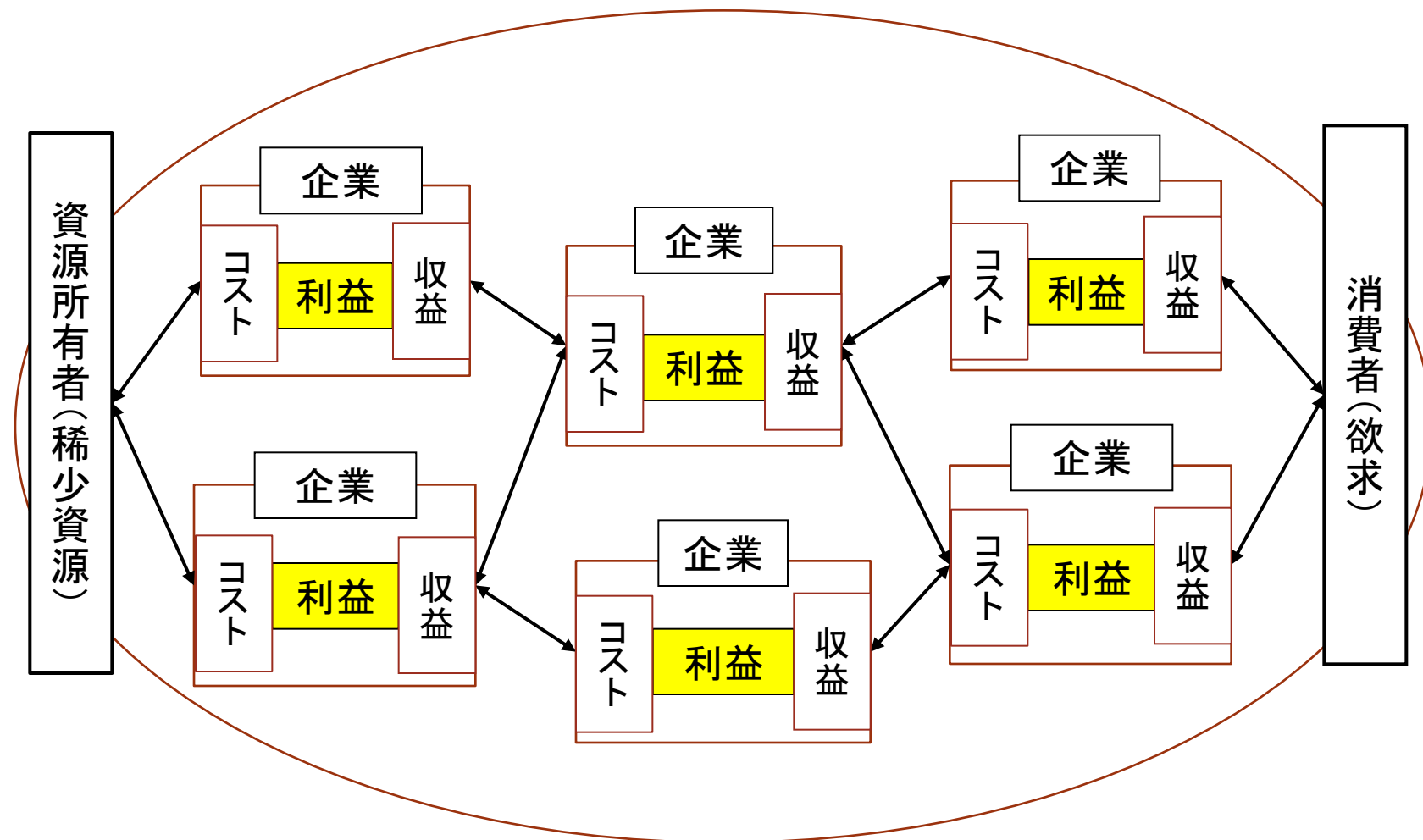
公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

市場経済における会計・監査の意義

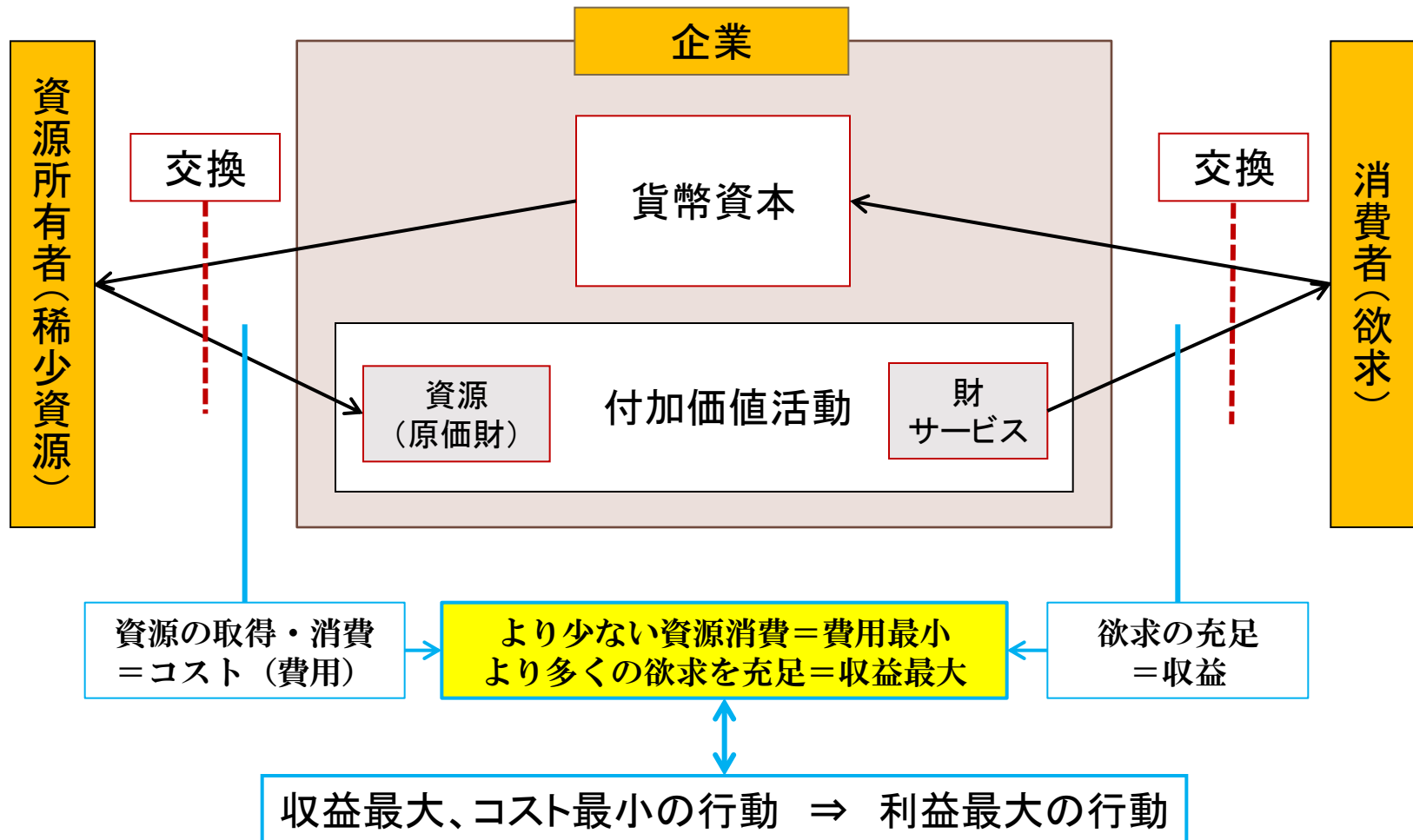
市場経済と会計

会計なくして経済なし

～企業の行動原理「収益最大、コスト最小」～



会計による企業活動の見える化



例題

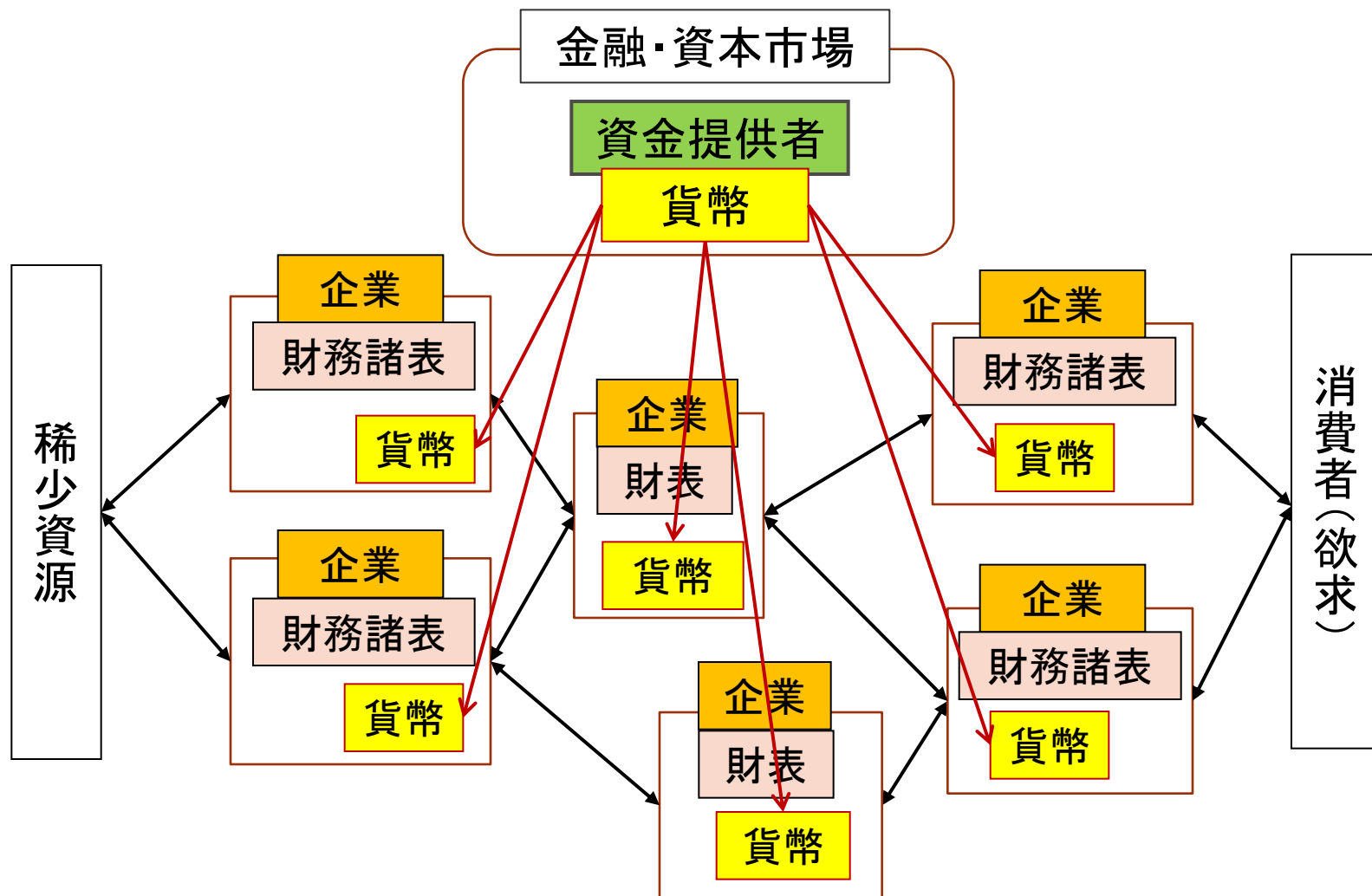
- 参考資料
 - 染谷恭次郎『早稲田大学と私』中央経済社、1995年
 - 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門（第8版）』有斐閣アルマ、2011年

市場経済における会計・監査の意義

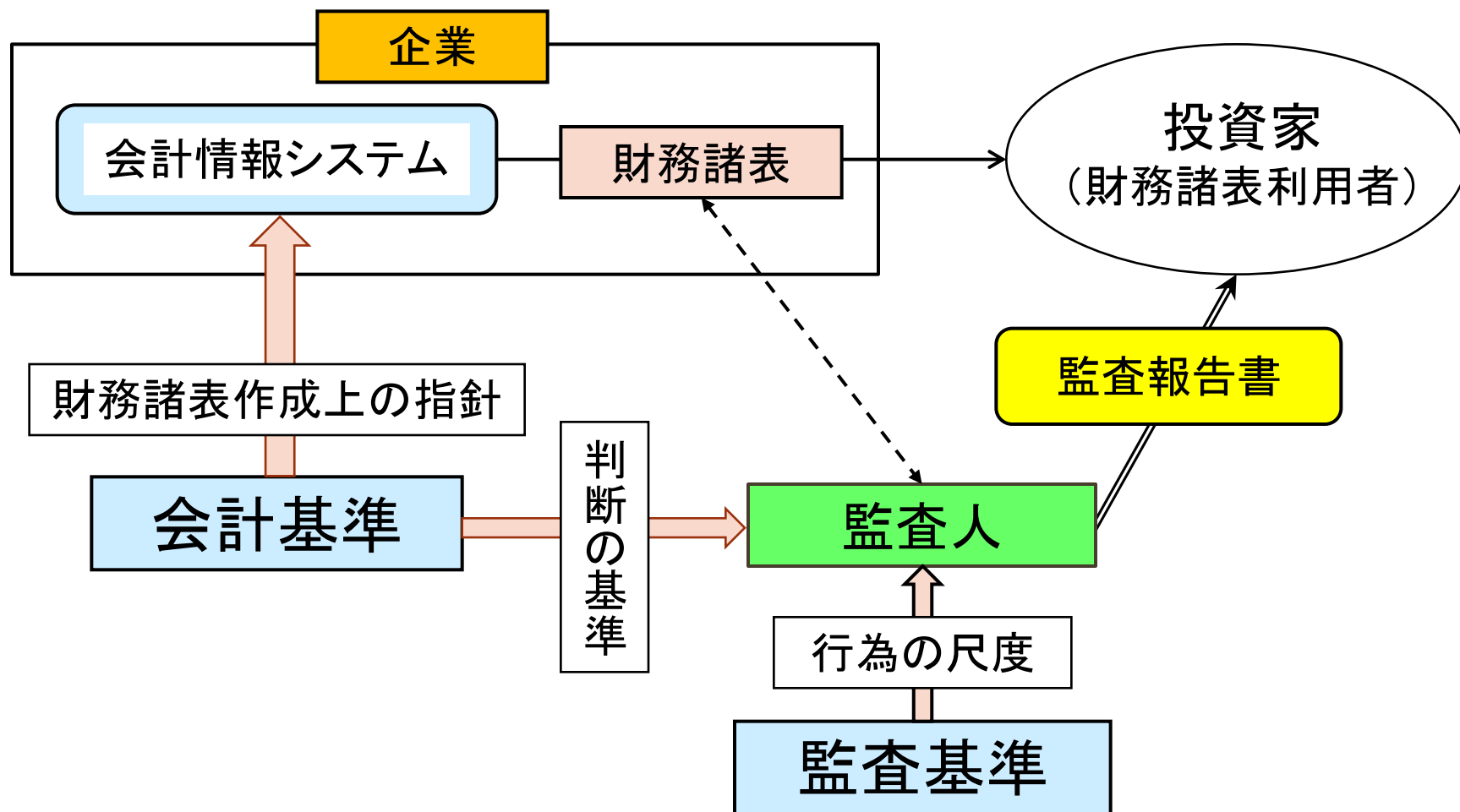
金融・資本市場と財務諸表監査

実体経済を支える金融・資本市場

— 国民経済における資金の有効かつ効率的配分 —



財務諸表の信頼性確保と監査



市場経済のあり方

歴史に学ぶ

アダム・スミスが描いた市場経済

- 経済の世界は、「自分自身の境遇を改善せんとする欲望」によって導かれている世界である…利己心というものが経済という世界の原動力である…
- （しかし）スミスによると、この利己心というものは、めいめいが何でも勝手放題なことをしてよろしいというのではなく、そこに一つの社会性がなければならないということになっている。社会的な枠のない、無軌道な、勝手気ままな欲望の追求というものは、人間の行為でもなければモラルでもない。

（高島善哉『アダム・スミス』岩波新書、1968年、76頁）

アダム・スミスが描いた市場経済（続き）

- 利己心は正義の限界の中で発揮されなければならず、経済人の活動は全体として国家社会の繁栄に役立つようにあらねばならないことになる。
- 経済の世界というものは、無法者の世界でもなければ、ただ手ばなしの自由放任の世界でもない。

（高島善哉『アダム・スミス』岩波新書、1968年、84頁）

会計および監査の実際

パナソニックおよび京セラにおける
経営と会計

京セラにおける経営と会計

- 資本主義社会は、利益を得るためなら何をして
もいい社会ではない。参加者全員が社会的正義
を必ず守るという前提に築かれた社会なのであ
り、厳しいモラルがあってこそ初めて、正常に
機能するシステムなのである。
- 社会正義が尊重され透明性の高い社会が築かれてこそ、
市場経済は社会の発展に貢献できるようになる。その
ためには、まず資本主義経済を支えている経営者が高
い倫理観を持ち、すべての企業がフェアで公明正大な
経営を実践していく必要がある。

(稲盛和夫『稲盛和夫の実学』 161-162頁)

むすび

公共財としての会計・監査を担う
公認会計士

公共財としての会計・監査を担う公認会計士

- 会計・監査は、
 - すべての市場参加者が利用する公共財としての経済情報を提供しており、国民経済（市場経済）が円滑に機能するために不可欠な社会基盤（社会インフラ）である。
- 公認会計士は、
 - 国民経済の重要な社会インフラを担う会計・監査の専門家としての社会的使命を有している。